

平成11年 9月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

原始時代の石器を作ろう

青梅市には200か所近くの縄文時代からの遺跡があります。それらの遺跡からは、数多くの土器と共に、石器が発見されています。そのほとんどが石斧と称されるもので、主な使い道は今でいう鍬（くわ）、すなわち穴掘りの道具です。発見された物の中に、刃の部分が摩耗し、ツルツルになるまで使われたものまで発見されています。どこの遺跡からも必ず発見されることにより、その重要度は相当な位置を占めていたものと思われます。

今回は、これらの石器（石斧）の作り方をご案内してみたいと思います。

石器を作るには、まずは石の工面が必要となってきます。幸いにも、私達には多摩川がありますので、さっそく川での石器作りに出かけみることにしましょう。

石器の原料となる石は、川辺に転がっている石で充分です。これらは、割るときに、軽すぎると跳ねて飛んでしまうし、重すぎると持ち上がりませんので、程よいものをということになります。ほかに、「ハンマー」と呼ぶ、拳大の石も用意します。

石斧の石の種類は、多摩川にある石のほとんどが利用されているようです。ただ、泥岩などの柔らかい石や石灰岩の白い石などは使われていません。

さて、集めた石を本拠地に持ってきて石割から始まります。

石には割れ易い方向（節理）があります。ここで拾ってきた丸く、平らな石は、多摩川の川底を転がり、硬い部分が残った岩石の一部分であり、平らな面に沿った方向が割れ易くなっています。従って、立てた形で、自分の胸元まで持ち上げ、ただ単純に土台の石に落とすということになります。落とした時の接触部分の位置によっては、一回できれいに割れ、何の労力も使わず石が剥がれ落ちるのです。そして、これらの剥がれた石のどの面を刃にするかとか、柄の部分をごににするかなど、たまたま割れ落ちた形を見ながら出来上がりのイメージを考えます。

一般的には、石斧の形は短冊型（四角くて細長い形）と分銅型（中央がくびれた形）があり、短冊型が作り易いと思われます。

形が決まったらあとは、形を整えていくことになります。それには、拳大の「ハンマー」を使います。ハンマーは、いわゆるトンカチのような役で、重すぎず、柔らかすぎず、の重要な道具です。記述のとおり、石には割れる方向がありますので、その方向さえ読めれば、あとはポイント

トをハンマーでたたきただけで形が整ってまいります。

たたき方は、空間で割ることがポイントです。すなわち、まな板の上で割るのではなく、左手で軽く持ったままハンマーで縁を欠いていくという方法です。刃の部分を割らないように、全体の形を整えて、出来上がりになります。

今回の石器作りの大きなポイントは、ハンマーなどを使うことより、特別な道具が不要なこと、力づくで行わなくとも簡単にできることなどが特徴です。

多摩川に遊びに行った際には、足下の石にも目を向け、石器1つも作ってみてはいかがでしょうか。きっと切れ味のよい道具ができることでしょう。

(文責 鈴木)